

立命館経済學

第十九卷 第四号

昭和四十五年十月

内 容

論 説

経済地理学と世界経済……………杉 野 園 明 3
——地政学批判——

研究ノート

県民所得統計の発展と県民所得標準方式(続)……………後 藤 文 治 50

資 料

社会主義のもとでの「使用価値と価値」(一)……………芦 田 文 夫 109

学 界 動 向

ヘーゲル・コンGRES報告……………中 埜 肇 136

故 手嶋正毅教授を追悼して

手嶋教授の人柄と学問……………後 藤 靖 147

手嶋教授の国家独占資本主義論……………池 上 惇 159

遺 稿……………手 嶋 正 毅 186

略歴・著作目録……………211

立 命 館 大 学 経 済 学 会

立命館経済学 第十九卷・第二号

論説

日本における鉄道政策の展開……………杉野 囿明
——とくに第一次大戦後を中心として——

『帝国主義論』の
方法についての一考察……………島津 秀典
——『帝国主義論』における展開と分析——

研究ノート

資本論における

方法と世界観(中、その四)……………梯 明秀
——その残された諸問題の一つについて——

資料

東ドイツにおける民主的土地改革と

農業の社会主義化(二)……………大藪 輝雄
——シュトラスブルク郡の場合——

共同研究室

発行所 立命館大学経済学会

立命館経済学 第十九卷・第三号

論説

独占段階における独自の・資本制的

生産様式と資本蓄積過程……………坂本 和一

紹介

『経哲草稿』第一草稿の執筆順序……………細見 英
——N・I・ラービン論文の紹介——

資料

近代経済学における数学利用……………建林 正喜
——その問題意識と利用方法(The Review of
Economics and Statistics, Nov. 1954)の
ナム ポジツムを回顧して)——

書評

加藤佑治著『日本帝国主義下の労働政策

——全般的労働義務制の史的研究——』三好 正巳

発行所 立命館大学経済学会